

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・異学年や地域の方、保育園児・幼稚園児との交流ができた。
- ・児童が自分の思いや願いを実現に向けて試行錯誤できるように、素材や材料、道具を選べる場の設定を工夫をした。「もっとやりたい」という気持ちを持続できる単元計画の工夫もした。
- ・児童の気付きの質を高めていく指導を意識し、授業づくりを工夫した。児童一人一人の気付きを価値付け、それらの気付きを全体へ共有することを意識した。
- ・毎時間の振り返りを重ねることで、自分の成長に気付き、次の学年への意欲につなげることができた。

(2) 課題

- ・活動に即して、児童自らが表現方法を選べるような環境の設定と授業づくりを工夫する必要がある。
- ・一人一人の気付きを、全体で共有したり、次々の学習に生かしたりすることが必要である。
- ・入学前の生活体験・経験、グループ活動の経験について児童間の差が大きい。体験的・協働的活動を意図的に入れていく必要がある。
- ・生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫（スタートカリキュラム）を行い、幼児教育とのつながりを意識した授業づくりをする必要がある。
- ・体験活動は充実していたが、表現や発表に時間をさけなかった。自己を見つめることはできたが、それらを発信する経験や意欲を高められるようにする必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・一人一人の活動を充実させ、それを振り返り表現させることで体験からの気付きを引き出す。 ・気付きの段階を教師が理解し、適切な発問や価値付けをする。 ・一人一人に生まれた個別の気付きを関連付けたり、自分と身近な人々や社会、自然についての気付きを大切にする。 ・発表方法の選択肢を広げたり、経験させたりする機会を設け、発信する力を身に付けさせる。	・児童が自分自身や自分の生活について、見付ける、比べる、例えるなどの学習活動を繰り返し行える場を設定する。 ・表現方法を活動に即して自分で選べるように、カードを数種類用意したり、付箋、ICTなどを使わせたりする。 ・文章や絵だけでなく、動作化や伝え合いなどの表現活動を繰り返す。 ・作品を掲示したり発表の場を設けたりすることで、友達のよさや自分との違いに気付き、自分の表現に生かせるようにする。 ・自分で選択する活動を取り入れることで、思考力・判断力の向上を図る。	・教室で生き物を飼う、季節を感じる実物の紹介や教室掲示をするなど、植物や生き物などが自然と目に入り、「やってみたい」と思うような環境づくりをする。 ・友達や地域の方、幼保の園児、高学年の児童や教職員など様々な人々との関わりを大切に活動を行う。 ・体験活動中・体験活動後の振り返りと気付きの表現を繰り返し行い、体験からの学びを大切にする。 ・幼稚園・保育園との交流機会を増やし、小学校への接続が円滑になるようにする。